

## 2011年（平成23年）3月期 第1四半期のご報告にあたって

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2011年3月期第1四半期（2010年4月1日から同年6月30日までの3ヶ月）の連結業績の概要をこのウェブサイトを通じてご報告いたします。

当第1四半期における当社グループの業績は、情報機器事業ではオフィス用MFP（デジタル複合機）の新製品が欧米市場並びに中国など新興国市場で好調に推移し、前年同期を大きく上回る販売実績をあげました。オプト事業では超広幅、薄膜タイプのTACフィルム（液晶偏光板保護フィルム）や高記録密度対応のガラス製ハードディスク基板などの主力製品の販売がいずれも前年同期を上回るペースで推移しました。これらの結果、売上高は前年同期（2009年4月から6月までの3ヶ月）と比べて52億円（2.8%）増収の1,946億円となりました。対USドル、ユーロとも前年同期に比べて円高となったため、為替換算による約99億円のマイナス影響がありましたが、この要因を除いた実質的な売上高の伸び率では8.0%増収となります。営業利益は、前年同期の5億円の営業損失から大幅に改善し、98億円となりました。円高による為替換算のマイナス影響を受けたものの、主要製品の販売増と製造段階におけるコスト削減努力の成果が相まって利益を大きく押し上げました。経常利益以下、四半期純利益まで、全ての段階利益においても前年同期と比べて増益となりました。各事業の詳細につきましては、[業績の概況](#)の中でご説明しておりますのでご高覧ください。

当社グループは、昨年4月に策定した経営方針<09-10>のもと、現下に直面する諸環境の激変を自らのポジションを高めるチャンスと捉え、より強く新しい流れを創りだし、成長につなげるための取り組みを進めています。その2年目となる当期は、予断を許さぬ経済環境の中にあっても、二期連続した減収減益の流れを断ち切るべく「成長軌道への転換点」と位置付け、「強い成長の実現を目指す攻めの経営」へ舵を切っております。とりわけ、既存事業の売上伸長並びに業容拡大に注力するとともに、需要拡大が見込まれるアジア市場での販売拡大に積極的に取り組んでおります。そのスタートとなる当第1四半期は、この方針に沿って各事業分野において主要製品の販売が堅調に推移する等その成果が出始めております。今後もグループ一丸となって「強い成長の実現」に向け、一層の販売機会の拡大に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年8月

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長  
松崎 正年

## ハイライト

(単位：億円、未満切捨)

	2011年3月期 第1四半期	2010年3月期 第1四半期	増減	(参考) 2010年3月期 第4四半期	増減
売上高	1,946	1,894	52	2,157	△210
営業利益 (△は損失)	98	△5	104	227	△129
経常利益	64	6	58	216	△152
四半期純利益	34	2	31	79	△44



(単位：億円、未満切捨)

	2011年3月期 第1四半期末	2010年3月期末	増減
総資産	8,419	8,657	△238
負債	4,323	4,450	△126
純資産	4,096	4,207	△111
自己資本比率(%)	48.5	48.5	-
有利子負債	1,949	1,973	△24

自己資本比率の推移



有利子負債残高の推移



(単位：億円、未満切捨)

	2011年3月期 第1四半期	2010年3月期 第1四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	74	142	△68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87	△91	3
フリー・キャッシュ・フロー	△12	51	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28	154	△182
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,601	1,539	61

## 業績の概況（2010年4月1日～同年6月30日）

情報機器事業、オプト事業を中心に主力製品の販売が好調に推移  
営業利益以下、大幅に回復

売上高

**1,946** 億円（前年同期比 +2.8%）  
（為替影響除く前年同期比 +8.0%）

情報機器事業では、オフィス用MFP（デジタル複合機）の販売台数が前年同期を大きく上回りました。オプト事業においても、高機能のTACフィルム（液晶偏光板保護フィルム）などの主力製品の販売が前年同期を上回るペースで推移しました。

営業利益

**98** 億円（前年同期は △5 億円）

経常利益

**64** 億円（前年同期は 6 億円）

四半期純利益

**34** 億円（前年同期は 2 億円）

営業利益は、円高による為替換算のマイナス影響を受けたものの、主要製品の販売物量の増加と、製造段階におけるコスト削減による売上総利益の押し上げがプラスに影響し、98億円となり、前年同期のマイナス5億円から大きく回復しました。

経常利益は、営業利益の増益に伴い64億円、四半期純利益は、34億円となりました。

このように、利益面では大底であった前年同期から営業利益以下、大幅に回復しました。

※ 億円未満を切り捨てて表示しております。

セグメント別業績（2010年4月1日～同年6月30日）

情報機器事業

円高による売上減少の影響があったものの、販売数量は前年同期に比べ大幅伸長し、増収増益

売上高

**1,327** 億円

(前年同期比 +4.4%)

(為替影響除く前年同期比 +11.1%)

営業利益

**76** 億円

(前年同期は 2 億円)

オフィス分野

新製品の投入により強化を図ったカラーMFPが、海外市場を中心に好調に推移し、販売台数は前年同期を大きく上回りました。なかでも、「bizhub（ビズハブ）C360」など中低速領域の新製品が販売台数の伸長を牽引しました。モノクロMFPでは、新興国市場専用機として開発した新製品2モデルを投入し、中国市場を中心に販売拡大に成果を上げました。また、欧米など先進国市場向けにはbizhubカラー機と同様の設計思想のもとで開発した4モデルを投入し、総合的な商品競争力の強化を図りました。

プロダクションプリント分野

需要の本格回復には至らないまでも、前期に投入したモノクロ機の新製品「bizhub PRO（ビズハブプロ）1200/1051」を中心に販売展開し、販売台数はモノクロ機、カラー機ともに前年同期を上回りました。

オプト事業

主力製品の販売拡大により営業利益上昇

売上高

**351** 億円

(前年同期比 +3.5%)

営業利益

**50** 億円

(前年同期比 +206.8%)

ディスプレイ部材分野

大型液晶テレビの需要回復が続く中、当社が得意とする薄膜タイプ、超広幅のTACフィルムが販売数量の増加を牽引しました。

メモリー分野

ブルーレイディスク用光ピックアップレンズは、ゲーム機やAV機器等民生電機メーカー向けの販売が大幅に増加しました。ガラス製ハードディスク基板も旺盛な需要に対応して、販売数量は前年同期を大きく上回りました。

画像入出力コンポーネント分野

カメラ付携帯電話用レンズユニットやデジタルカメラ用ズームレンズ

などについては、採算性の改善に努めました。

[▶ ページトップへ戻る](#)

## メディカル&グラフィック事業

フィルム製品の販売数量の漸減に加え、為替の円高の影響もあり伸び悩む

売上高

**210** 億円

(前年同期比  $\Delta$ 11.4%)

営業利益  
( $\Delta$ は損失)

$\Delta$  **0.9** 億円

(前年同期は 8 億円の利益)

### ヘルスケア分野

デジタル入力機器・システムの販売拡大やソリューションビジネスを積極的に展開し、主力のデジタルX線入力機器の販売台数は「REGIUS（レジウス）」シリーズを中心に前年同期を上回りました。一方、フィルム製品の販売数量は、国内外市場とも需要減少に伴って前年同期を下回りました。

### 印刷分野

印刷業界の市況回復は依然として重い足取りとなりましたが、注力分野であるオンデマンド・デジタル印刷機「Pagemaster Pro（ページマスタープロ）6500」などの販売拡大に積極的に取り組みました。

※ 億円未満を切り捨てて表示しております。

[▶ 事業セグメントの変更について](#) □

## 財政状態



売上債権の減少およびたな卸資産の削減に努めた結果、流動資産は減少しました。固定資産については、有形固定資産の取得により増加した一方、全体として償却が進んだことにより減少しました。



流動負債については、支払手形及び買掛金が増加し、第1四半期の特徴として賞与引当金が減少しました。有利子負債(長短借入金と社債の合計額)は、主に短期借入金が減少したことにより、24億円減少の1,949億円となりました。

1株当たり純資産額は770.03円となり、自己資本比率は総資産および自己資本ともに減少したこともあり、前連結会計年度末と変動なく48.5%となりました。

※ 億円未満を切り捨てて表示しております。

[▲ ページトップへ戻る](#)

キャッシュ・フローの状況 (2010年4月1日～同年6月30日)

## I. 営業活動によるキャッシュ・フロー

**74** 億円 (前年同期は **+142** 億円)

税金等調整前四半期純利益、減価償却費および運転資本の好転と、年金制度への掛金の追加拠出に伴う減少等との相殺により、営業活動によるキャッシュ・フローは74億円のプラスとなりました。

## II. 投資活動によるキャッシュ・フロー

**△87** 億円 (前年同期は **△91** 億円)

情報機器事業およびオプト事業における有形固定資産の取得による支出を中心に、投資活動によるキャッシュ・フローは87億円のマイナスとなりました。



## I + II. フリー・キャッシュ・フロー

**△12** 億円 (前年同期は **+51** 億円)

年金制度への掛金の追加拠出85億円の特殊要因を除くと、実質的には70億円超のフリー・キャッシュ・フローを創出したこととなります。

## III. 財務活動によるキャッシュ・フロー

**△28** 億円 (前年同期は **+154** 億円)

配当金の支払い、短期借入金の増加などにより、財務活動によるキャッシュ・フローは28億円のマイナスとなりました。

※ 億円未満を切り捨てて表示しております。



## トピックス

### 経営関係



コニカミノルタビジネステクノロジーズとコニカミノルタエムジーが、相次いでインドに販売会社を設立

- ▶ [プレスリリース BT](#)
- ▶ [プレスリリース MG](#)



超広幅「TACフィルム」「VA-TACフィルム」を増産  
神戸市の第7工場が本格稼働

- ▶ [プレスリリース](#)



プロダクションプリント分野の事業拡大に向け組織再編

- ▶ [プレスリリース](#)

### 事業関係



プロダクションプリント分野向け新商品ブランド第一弾  
デジタル印刷システム「bizhub PRESS C8000」新発売

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [製品情報](#)
- ▶ [ブランド発表プレスリリース](#)



環境負荷低減に大きく貢献する「bizhub 184/164」シリーズ  
を新興国市場に向け出荷

- ▶ [プレスリリース](#)



小型迅速生化学検査装置「コレステックLDX KM」を販売開始

- ▶ [プレスリリース](#)



LEDテレビに対応した高精度なディスプレイカラーアナライザ「CA-310」新発売

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [製品情報](#)

### CSR関係

世界の代表的なSRI評価会社、SAM社のCSR格付で「シルバークラス」に選定

▶



▶ [プレスリリース](#)



「KONICA MINOLTA エコ & アート アワード 2010」のグランプリ賞決定

▶ [プレスリリース](#)

▶ [詳細情報](#)



コニカミノルタの全生産拠点にて「ゼロエミッションレベル2」を達成

▶ [プレスリリース](#)

## その他

---



東京スカイツリー®計画に開設予定の最新鋭ドームシアターWEBサイト公開

▶ [詳細情報](#)